

【第1分科会】高齢者福祉・介護分野

【第2分科会】児童福祉・子育て分野

【第3分科会】障がい福祉分野

【第4分科会】地域福祉・生活困窮者支援分野

衣・食・住環境

健康

家族・親族

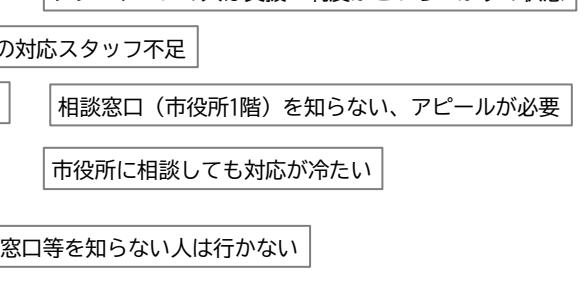
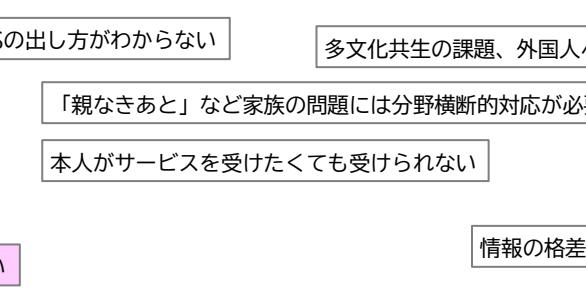
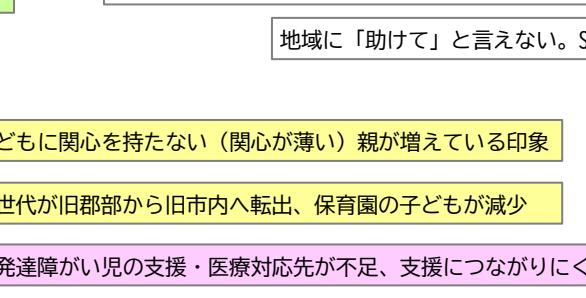
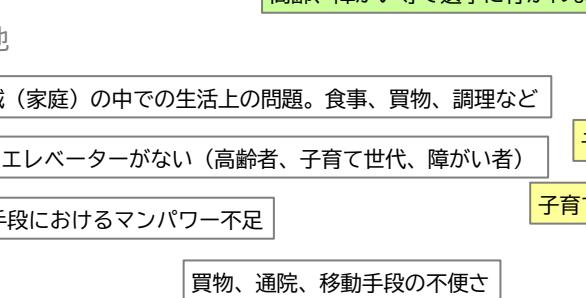
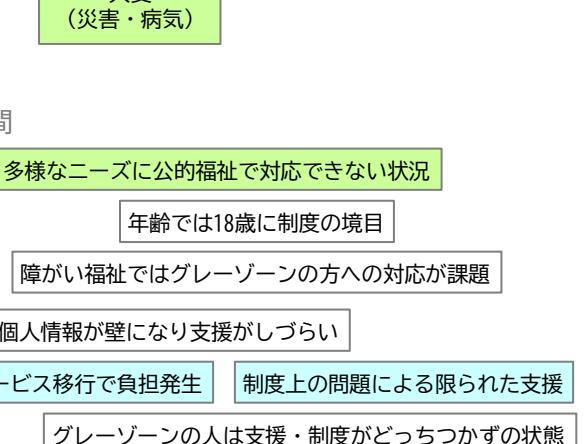
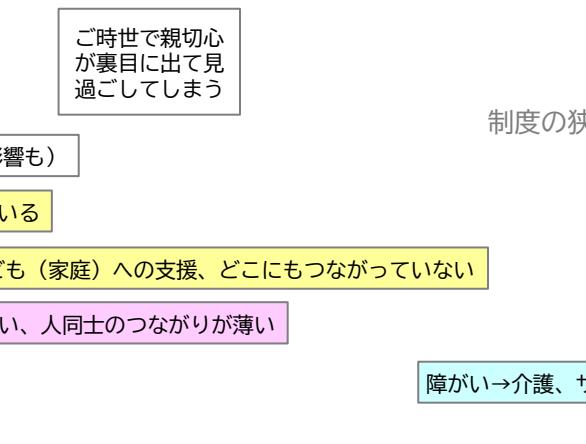
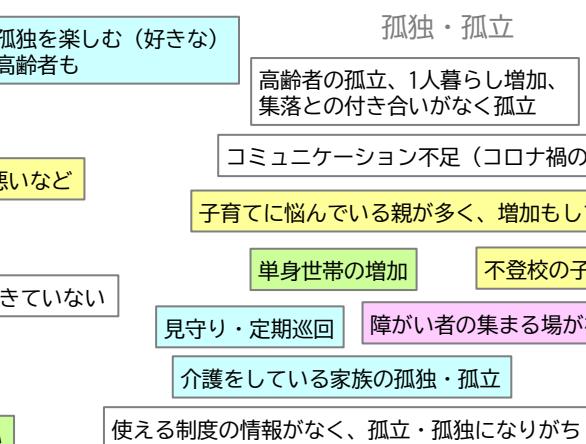
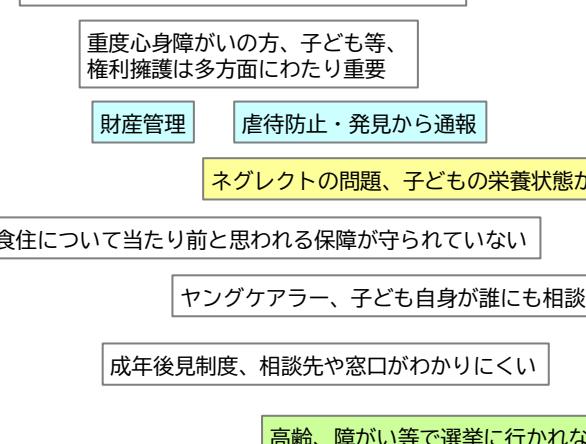
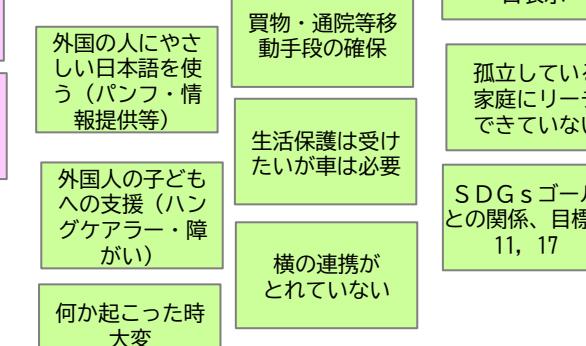
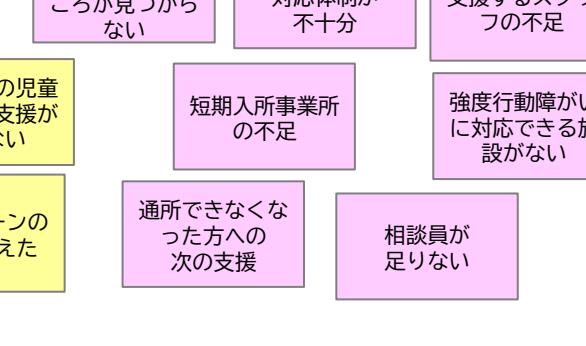
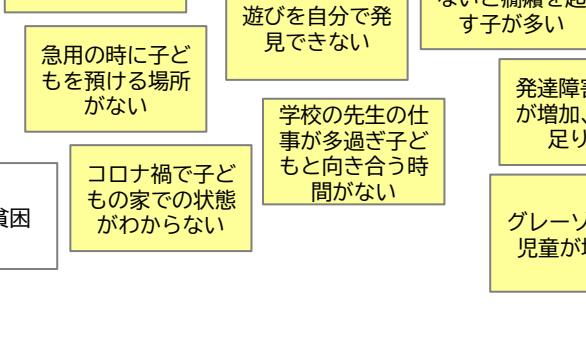
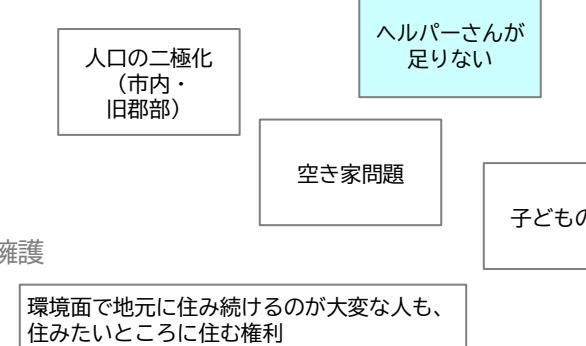
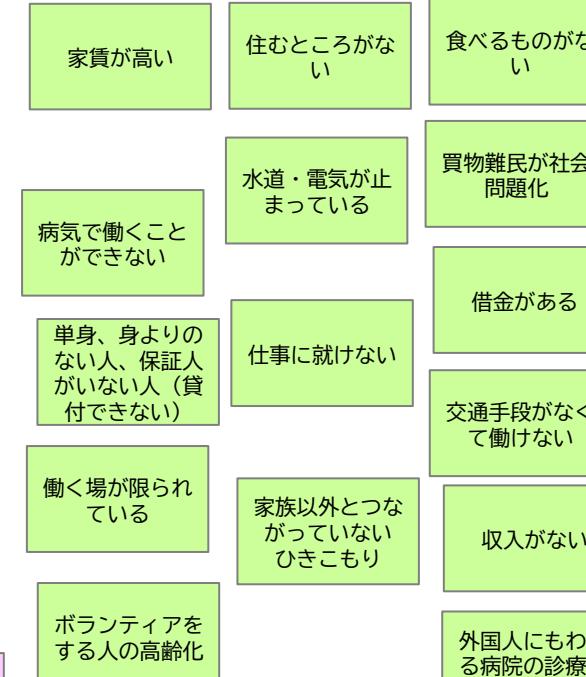
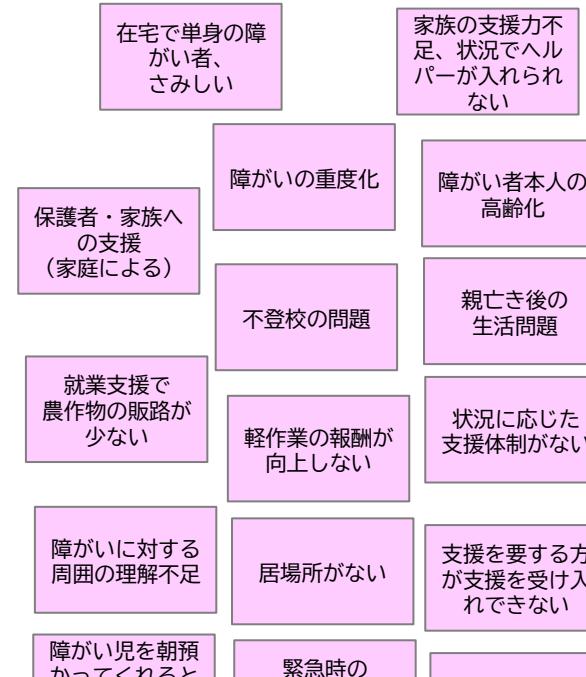
しごと

交流・社会つながり

サービス etc.

権利擁護

全般・その他



制度の狭間

孤独・孤立

財産管理 虐待防止・発見から通報

ネグレクトの問題、子どもの栄養状態が悪いなど

衣食住について当たり前と思われる保障が守られていない

ヤングケアラー、子ども自身が誰にも相談できていない

成年後見制度、相談先や窓口がわかりにくい

高齢、障がい等で選挙に行かれない

コミュニケーション不足(コロナ禍の影響も)

子育てに悩んでいる親が多く、増加もしている

単身世帯の増加

不登校の子ども(家庭)への支援、どこにもつながっていない

見守り・定期巡回

障がい者の集まる場がない、人同士のつながりが薄い

介護をしている家族の孤独・孤立

使える制度の情報がなく、孤立・孤独になりがち

地域に「助けて」と言えない。SOSの出し方がわからない

多文化共生の課題、外国人への対応スタッフ不足

地域(家庭)の中での生活上の問題。食事、買物、調理など

「親なきあと」など家族の問題には分野横断的対応が必要

相談窓口(市役所1階)を知らない、アピールが必要

公営住宅にエレベーターがない(高齢者、子育て世代、障がい者)

子どもに関心を持たない(関心が薄い)親が増えている印象

本人がサービスを受けたくても受けられない

市役所に相談しても対応が冷たい

移動手段におけるマンパワー不足

子育て世代が旧郡部から旧市内へ転出、保育園の子どもが減少

情報の格差。窓口等を知らない人は行かない

買物、通院、移動手段の不便さ

発達障がい児の支援・医療対応先が不足、支援につながりにくい

情報の格差。窓口等を知らない人は行かない

（第2回）課題に気づける人・支援につなげられそうな人

【小圏域】民生・児童委員／ご近所／保護司／地域の福祉員／散歩している人／宅配業者／消防団／店のおばちゃん
 【中圏域】郵便局（配達で安否確認）／医療機関の窓口が積極的に声かけ／地域のサロン／職場の人
 【広域】交通機関の運転手・駅員／行政職員／マイナンバーカード案内の場面で／電気・ガス・水道などの検針時

【小圏域】犬の散歩中、ウォーキング中／家族や身近な人はかえって気づきにくい／たまに会う親戚が子どもの問題に気づく／ひとり親家庭の友人・きょうだい
 【中圏域】友だち・クラスメイト／普段買い物に行く店（よく子どもだけで買い物に来るなど）／郵便・新聞配達・宅配の人／精神疾患の親の主治医／保育士・先生・保健師／支援員／子ども食堂のスタッフ／区長・班長さん／民生・児童委員
 【広域】子育て支援センター／行政のアウトリーチで貧困を把握

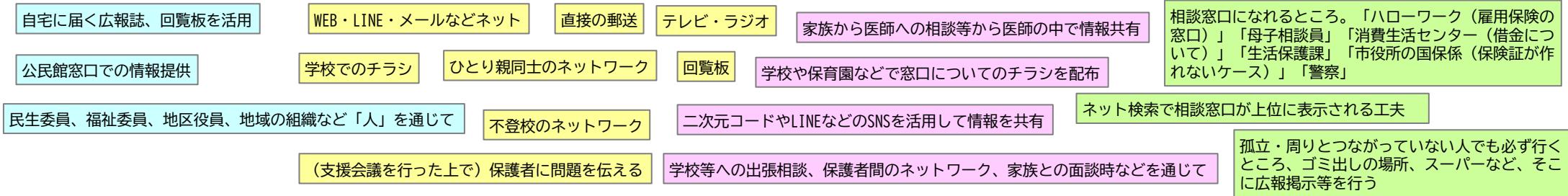
【小圏域】事業所職員／同じ事業所の利用者／家族／保護者／友だち（LINEなどを通じてでも）／民生・児童委員
 【中圏域】学校の先生／同じ障がいのある人の保護者／相談支援員のモニタリング時／電力・水道等検針でメーターが止まっていることに気づく／大家さん、不動産屋さんが家賃の未納から／病院の先生が受診や健診の際に
 【広域】宗教関係の人／市役所等での手続き時に市の職員が

【小圏域】家族／近所／民生・児童委員／老人会／サロン／行きつけのお店
 【中圏域】職場／学校／利用施設／病院のソーシャルワーカー／学校のソーシャルワーカー
 【広域】電力・ガス・水道・不動産会社等から困窮の情報をもらえることがある

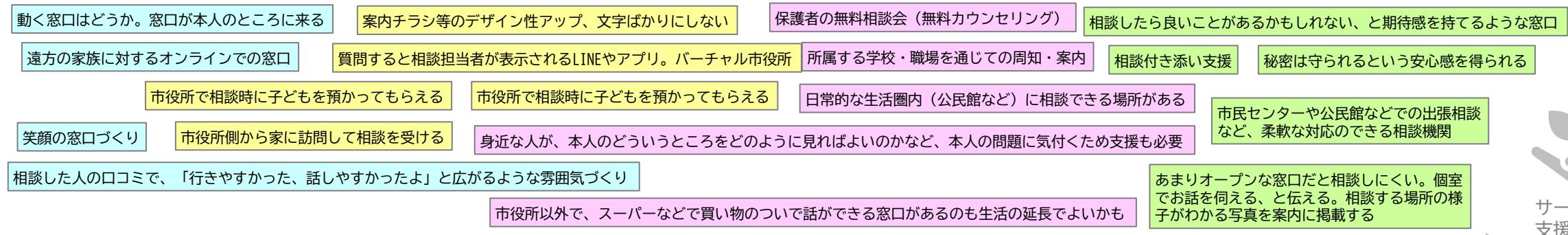
（第2回）情報を届けるための方策



課題のある人



（第2回）相談のしやすさ、利用のしやすさのために



サービス・支援

（第3回）地域福祉への関心・参加

【興味・関心】活動している方々が楽しくやっている風に見える。自分もやってみようかと思えるように
 【参加のきっかけ】世代別の各種イベントでまず集まってもらいそこから年代が広がる／若者にはSNS、高齢者には紙と世代に合わせて発信／目的がなくても行ける、立ち寄れるところが自然と目的の場所になる
 【人材・担い手】思い切って役割は当番制に、次はあなた、と担ってもらおう／20～30年先を見据え、福祉について学ぶ場（教育）も必要／個人が育つ「個育て」

【興味・関心】花火大会のような自然に人が集まる行事で興味を引く／会うたびに声をかける。顔見知りになり話せるようになり、そこから関心を持ってもらえるようになる
 【参加のきっかけ】知り合いが参加していると参加しやすい／一緒に行こうと誘い合う／若いお母さんなどには文書ではなく動画。活動も動画で説明／定期的に相談にのる／引退して時間に余裕のある人などを誘う
 【人材・担い手】参加回数を減らすなど負担を減らす／子どもたちが土地の歴史なども知り唐津への愛着が育つのが一番

【興味・関心】（障がいなどの）事業所をまず知ってもらおう／活動を土日に限定しない／堅苦しくなく気軽に参加できるように／運動会など親同士が盛り上がる（懇親会にあたりそうなもの）を復活／参加は自分にもメリットがあり、参加することで他者も助かる、といった「良いこと」をアピール
 【参加のきっかけ】子ども向けの回覧板で地域活動を告知・呼びかけ／災害時避難のイベントを公民館で、学校や保育園の行事として／グラウンドゴルフ、餅つき大会など楽しいイベントできっかけづくり／地区ポイント制。地区チラシにイベントのチケットを付ける／子育て世帯が参加しやすいイベント
 【人材・担い手】若い人向けの活動を行う／2・3世代で参加しやすい活動が将来の人材を育てる

【興味・関心】挨拶し続ける。〇〇さんおはようと呼びかける。ゴミ出しの場などでも顔を見た時
 【参加のきっかけ】若い人にはSNSでお知らせ／個人名を出さなくてよい活動／働き方の多様性に合わせた工夫／引っ越してきた人に「歓迎会でも」と挨拶してきっかけに
 【人材・担い手】企業も巻き込む。企業も一緒に人材育成／農業体験で農業関係者の参加も増やす

現行計画の
取り組みから
↓

（第4回）それぞれの役割	
① 情報提供の充実	<p>【自助】友人、家族、ご近所との付き合いをまず持つておく／情報を得るために自分で聞いたり調べる。ネットで調べる、家族や知人、かかりつけの病院などで聞く、市役所に出向いて相談／困っていることを発信／井戸端会議など地域別集まりにも参加／自助ではSNSで自ら情報収集</p> <p>【互助】自治会に加入。回覧版やチラシにしっかり目を通す／保育園・小中学校の保護者同士のコミュニティ、連絡網やメールでの情報共有</p> <p>【共助・公助】公助ではSNSで情報発信／情報誌、LINE、ラジオなどで行政から発信／小さな集まり、行事やイベントなどに出向いて情報発信／チャットでの問い合わせをできるようにする／動画での情報提供。SNSアプリを活用（災害時などにも）</p>
② 相談支援体制の充実	<p>【自助】 SNSの投稿や相談を活用／近所の人との交流を大事にする／課題について知り、自分たちでできることは何か考える／市報で相談窓口を調べる</p> <p>【互助】 信頼できる友人、話しやすい人、区長さんや民生委員に相談／病院に行ったり、近所の人からの助けを受ける／市役所で窓口がわからないときは近くの人にたずねる</p> <p>【共助・公助】 情報の一元化／AIの活用／プッシュ型、アウトリーチ型への転換／広域対応の窓口と連携</p>
③ 権利擁護体制の整備	<p>【自助】 できないこと。困ったことがあれば周囲に話してみる／エキスパート、相談窓口、町の行事に参加など、自分から積極的に相談相手を見つける／家族で今受けている支援や関わり方を見直す／成年後見制度に関する情報を調べる／家族で食卓を囲んでコミュニケーションを図る。そこで家族の変化に気づく</p> <p>【互助】 地域で困りごとを見つけ、受け止める。医療や介護に次ぐ役割を地域で果たす／見て見ぬふりをしないで、気づいたらすぐに連絡／周りの人が必要な時に声をかける、気にかける／親族間で顔の見える関係を作り、虐待などないか見守る／ご近所さんへの挨拶をする</p> <p>【共助・公助】 相談窓口の一覧をつくりかりやすく案内／市民後見人の養成・充実／制度の利用にお金がかからないようにする</p>
④ 生活環境・災害・緊急時の支援	<p>【自助】 防災ラジオ活用／市のLINEに登録／防災用品を準備／自主防災組織に加入／家族で避難先の確認。子どもたちと町の探検をする／防災マップを日頃から活用する／各家庭で将来の生活環境について考える／引っ越してきた人は長老（昔からいる人）から情報を得よう努める／免許返納後の生活を考える</p> <p>【互助】 危険箇所の定期点検／普段繋がっている友だちなどとの電話やメールなどのつながりを大事にしておく／普段から区長さんや班長さんとのつながりをつくる／民生委員による安否確認。防災課との連携・セミナー・イベント／佐賀災害プラットフォームの活用</p> <p>【共助・公助】 ハザードマップの定期的な見直し／共助の活動をしている団体への資金援助／規制解除。手続きや会議などの枠組みを緊急時には外して行動に移す／消防団の地域巡回／公的な備蓄（食料・水）と定期的な確認</p>
⑤ 地域の見守り体制の充実	<p>【自助】 自分からご近所に声をかける。普段から困りごとを話せる人を知っておく／学校行事に積極的に参加する／ふるさとを守る気持ちを持つ</p> <p>【互助】 町内会での支援体制づくり、住民へのお知らせ／一人暮らしの方をマップで示して非常時に助けやすくする／若い世代も高齢の世代も参加できるシステムづくり／地域消防団の町内会活動の充実／郵便屋さん、公民館、消防団などがそれぞれの役割を通じて見守る</p> <p>【共助・公助】 互助の団体への資金面の支援／ご近所ネットワークを把握して活用する／公民館を中心とした組織編成</p>
⑥ 地域活動の担い手の確保と育成	<p>【自助】 唐津を愛する心、郷土愛をしっかりと持つ／人の困りごとを自分のこととして、しっかり情報収集をしていく／顔見知りの関係を築いていくため、子どもの頃から地域活動の場に連れて行く。親子で地域活動の場に行く／相談できる人を自分自身で見つけ、作っていく</p> <p>【互助】 市外から来た方の力を活用する。市外から来た方をしっかりサポートをして住みやすいまちにする／若い世代のリーダーづくり</p> <p>【共助・公助】 活動するにあたって何かメリットが必要。活動の意義、ポイント制などモチベーション維持の仕組みづくり／地域での活動をバックアップする体制づくり。人的なことや、活動で困ったことをしっかり聞いてくれる。可能であれば経済的なサポートも</p>
⑦ 福祉ボランティアの推進	<p>【自助】 まずボランティアについて知る。興味関心を持つ／ボランティアを頼みやすい関係性を普段から築いておく／困ってる人のニーズに自分を重ねて考える／まず一歩踏み出してみる。そんなに難しいものではないとわかり、福祉ボランティアの距離感が近くなる</p> <p>【互助】 人材の新規確保とともに現在活動している人を維持／お互いのボランティア精神を称えあったり語り合う。活動している人が近くの人を誘う／子どもたちが楽しめる場で親たちがボランティアを行う。親の背中を見ることで子どもたちにも福祉ボランティアの気持ちが根付く／小さな活動や地区活動をしている方々も福祉ボランティアの一員として誘い込む</p> <p>【共助・公助】 新規の団体、小さい地域団体などを紹介／ニーズがありそうな新規のイベントを検討／ボランティアをしたい人を把握／ポイント制やボランティアの保険についてPR／地域の成功例を作る。離島など福祉ニーズが高いところに目を向けて活動を積極的に行う／福祉ボランティアを身近に感じられる工夫</p>
⑧ 地域福祉に対する意識の啓発	<p>【自助】 市報を見て情報を取る／近隣の方との挨拶／学生時代に福祉に触れる機会を得る／地域行事に積極的に参加／家族・親戚も子どもをみてくれないとき、子育て支援センターの一時預かりを利用／一人ひとりがアンテナをしっかりと立て、身近な人から手を差しのべていく</p> <p>【互助】 地域福祉について学び、触れる機会を企業が後押しする／地区単位でSNSのグループを作り地区のイベントを知ってもらう／子ども向け回覧板・プリントで活動を告知／TikTok等のアプリの広報枠の活用／学校と民生委員・児童委員の間で情報共有／公民館等のサークルに参加するなど横のつながりを大事に</p> <p>【共助・公助】 移動サービスの充実。買物サービスとの連携。オンライン講座の充実／地域福祉への参加機会を後押し／企業の税制優遇などの制度を充実／地域福祉に関する出張講座／余裕のある時間を有効に活用できる仕組みづくり／動ける人は良いが、動けない人にこそ手を差しのべる</p>

（第5回）実現したい唐津の未来

- 移動しやすいまち。交通網が整備されている。バス便も増え、呼子線も復活。
- 免許を返納しても困らないまち。
- 子育てしたいまち、子どもを大切にしてみんなが笑顔に、みんなが認めあう、地域のつながりのあるまち。
- 転入した人を地域で受け入れる、転居者にやさしいまち。
- 離島の全てに橋をかけ、生活しやすくなると同時に観光誘致、観光客がたくさん来るまち。
- 人も、モノも、「地産地消」。唐津で子どもを生み、生まれた子どもが唐津のものを食べて唐津で育ち、生きていく。人生の最期まで過ごせる唐津。

- 人情に溢れて、子育てがしやすく、助け合える人がいる、そんな住みたい唐津になっている。
- 「困った時にはお互いさま」と言える。困っている時に「困った」と言える、声をあげやすい雰囲気がある。
- 自分が自分を助けるノウハウを持っていて、人の話にも耳を傾ける、そういった人づくりがなされている。
- 子育ての不安がなく、子育ての経済的な不安がほとんどないまちになっている。
- 唐津の問題は唐津で解決できる。さらに、他の地域もリスペクトするような、「福祉といえば唐津」と言われるような評価を受けているまち。

- 遊ぶ場所が充実している。佐賀や福岡など市外・県外に出なくても楽しめるまち。
- 観光客が多いまち。観光客が増えることで経済的にも潤っているまち。
- 助けてくれる人がたくさんいて、ネットワークができていて、自分のできることをして生活していけるまち。
- やりたい仕事ができる、仕事を自分で選ぶことができる。高齢者でも障がいのある方でも（詐欺などから）自分の財産を守る。貧困や経済格差のない社会になっている。
- 子育てしやすい環境が構築できているまち。
- 誰とでも挨拶ができる。20代、30代の若者と高齢者といったご近所同士の仲がよくなり、楽しく生活できるまち。
- 仲がよくなれば、困ったときに誰かに相談もしやすい。困ったときに相談できる、一人ひとりの顔がわかるまち。

- 子どもの相談など相談窓口がわかりやすいまち。
- 障がいのある方への用具貸し出しや住宅改修など、在宅での生活がしやすいまち。
- 子育てしやすい環境。子育てしているなかで鬱になりそうなきにも支援される環境や場所がある。
- 移住者や隣人に優しい、優しくできるような環境になる。
- 大学を出ても唐津で就職できるような環境がある。そういった企業が少ないと思われるので。
- 病気になっても、治った後、元気に活躍できる場がある。
- お金がない人も心豊かに暮らせるまち。

（第5回）未来の実現のために

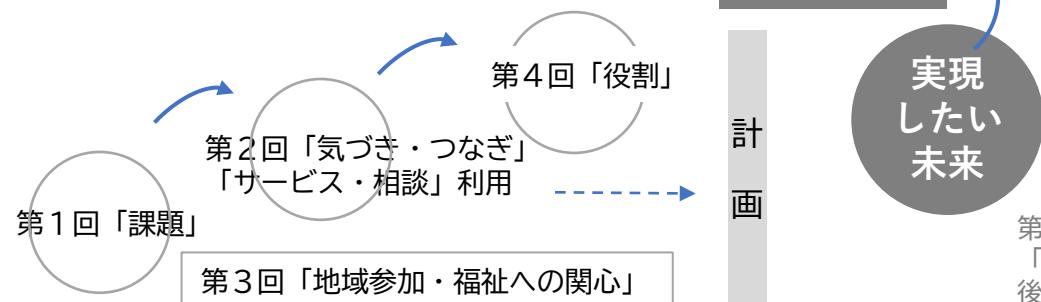
- 唐津の7つの島に橋をかける。名付けて「7つの島 虹の橋 大プロジェクト」。
- それを観光の目玉にする。建設業の仕事が増える。島の人の生活が便利になる。仕事、人が集まり、産業が生まれ、みんなが住みやすいまちになる。そうして旧郡部を発展させる。
- 人が動くと元気が出る→元気が出るとひらめきが出る→ひらめきが出るとやりたくなる→やってみて実現できると人が動く。この唐津サイクルを作り出す。唐津で生まれ、育ち、最期まで暮らす、唐津「人もモノも地産地商」にもなっていく。

- 唐津に宝物はいっぱいあるのに生かしていないと思うので、それらを生かすランドデザインを考える。
- 唐津の名所をまとめて見られるように。観光周遊バスや常に周遊しているバスの運行。
- 唐津で起業しやすくする。唐津に戻って働く人の支援、新卒採用する企業への支援。企業誘致。
- 小学校も行政もDX化を進める。
- 「福祉を考える会」に出たメンバー自ら、唐津のために活動する。

- 市外から人が引っ越してくるまちにする。唐津の特性（マリンスポーツ、ハイキング、収穫体験）などを生かして人口増を図る。特性を生かすための市からの援助も必要。
- 県外・市外に行かなくても遊べる・楽しめる場所を増やす。
- 人と人のつながりや相談窓口のネットワークを強める。孤立している人を見つける（一人にしない）。
- 地域での活動を知らない人に活動を告知する。活動することのメリットなども広報でお知らせする。
- 県外から来る（観光でも、移住でも）人のためにも、交通を整備する。
- すでに唐津はよいまちである。これを強くアピールして、唐津の活性化につなげる。

- 相談窓口がわかりやすい。窓口だけでなく案内の人もやさしい。やさしく言葉をかけてもらえれば心が救われる。やさしい言葉がけは基本。
- やさしい言葉がけは、誰でもできる。みんなができる。
- 外国人や外国を理解できるようにする。国籍に関わらず相談を受けられるスペシャリストを育成する。
- どう生活すればよいか、そこからわからない人もいる。セラピスト（各専門家）を活用、また、そのような専門家がいることを知ってもらう。

第1回の「課題」に、第2回の「地域の人々」が気付き、第4回の「自助」や「互助」「共助」で解決を図っていく。その前提として第3回の「地域への関心」「地域活動への参加」がある。と、課題から解決へ向けて議論。



第5回は、逆の発想で、未来を起点に。「実現したい唐津の未来」を自由に出し合い、後半では、そこへ向かっていくためにどうするかを話し合い。